高血圧症集団調査の口腔内所見

第 3 報 装着補綴物の所見

小 貫 伸 一 一 木 穰 小 神 恒 彦
山 田 裕 一 白 岩 俊 明
東京医科歯科大学歯学部第三歯科補綴学教室（指導 林都志夫教授）

（昭和 41 年 1 月 15 日受付）

Hypertensive Patients and their Dental Observations Part 3 Prosthetic Appliances

Shin-ichi Onuki, Minoru Ichiki, Thunehiko Ogami,
Yūichi Yamada, Toshiaki Shiroiwa,

3rd Dept. of Prosthetic Dentistry, Tokyo Medical & Dental Univ.
(Director : Prof., Dr. Toshio Hayashi)

結 言

東京医科歯科大学第三歯科補綴学教室では昭和 37 年 2 月から 4 月にかけて本学第二内科学教室の行なつた高血圧症集団調査に参加し 歯科部門を受持つた。

調査結果のうち、口腔硬組織所見および口腔軟組織所見について、それぞれ第 1 報、第 2 報で報告した。

今回は被験者の装着していた 歯科補綴物の所見について報告する。

調査資料および方法

調査地域は第 1 報でのべた如く 茨城県五霞村、新利根村と東京中央区茅場町の 三地域で、調査人員は五霞村 174 名、新利根村 163 名、茅場町 132 名、計 469 名である。

口腔診査の時に装着補綴物の 種類、装着部位等を同時に調べた。

調 査 結 果

a. 総括的観察

各種補綴物の比をみると三地域とも 歯冠補綴物が圧倒的に多く表 1 の如く全体の 90%前後であつた。特に金属冠は五霞村、新利根村で 78%前後、茅場町で 66%と高率であつた。

表 1

		20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60~	合計数
五霞村	部分床義歯	1	6	2	7	20	36
	全部床義歯	0	1	2	6	22	31
	冠 橋 義 歯	69	160	148	74	72	523
新利根村	部分床義歯	1	2	4	6	11	24
	全部床義歯	0	0	0	6	7	13
	冠 橋 義 歯	67	118	143	99	82	509
茅場町	部分床義歯	1	0	11	29	32	73
	全部床義歯	0	0	0	6	22	28
	冠 橋 義 歯	4	57	117	214	191	583

東京医科歯科大学歯学部附属病院の 17% に比べ、この地域の歯科医は補綴物の 製作にあたり、金属冠のしめる割合が非常に大きいことがわかつた(表 2)。

部分床義歯、全部床義歯等の 有床義歯は 7~15

表 2

	五 霞 村	新利根村	茅 場 町	東医歯大 附属病院
	%	%	%	%
継 続 歯	3 (0.5)	0	23 (3.4)	498 (18.0)
金 属 冠	460 (78.1)	424 (77.7)	453 (66.2)	473 (17.1)
橋 義 歯	59 (10.0)	85 (15.6)	107 (15.6)	364 (13.2)
部分床義歯	36 (6.1)	24 (4.4)	73 (10.7)	1083 (39.1)
全部床義歯	31 (5.3)	13 (2.3)	28 (4.1)	347 (12.6)

%にすぎなかった。

年代別にみると三地域とも40歳代までは歯冠補綴物が90%以上をしめている。50歳代になると80%台になり部分床義歯が増加して来る。60歳以上になると部分床義歯の増加と共に全部床義歯の増加が目立つた。これは当然ながら、歯牙の喪失が増し有床義歯でなくては補綴出来なくなったからと思われる。三地域を比べると茅場町は他の二地域に比し1人当りの補綴物の数が多くことに部分床義歯の増加が目立っていた。

b. 継続歯

継続歯は五霞村で3例、茅場町で23例みられたのみで新利根村ではみられなかった。

全体からみるときわめてわづかで、ほとんどが上顎前歯にみられた(表3)。

表 3

		五 霞 村	新利根村	茅 場 町
上 顎	中 切 歯	2		13
	側 切 歯	1		5
	犬 歯			2
下 顎	中 切 歯			3
	側 切 歯			
	犬 歯			
合 計		3	0	23

東京医科歯科大学歯学部附属病院における継続歯のしめる割合に比しきわめて少ない。それは後述の金属冠の項をみるとわかるように、この三地域では前歯部金属冠が多数をしめ継続歯で処置すべきケースの多くが前歯金属冠で補綴されているものと考えられる。

c. 金属冠

金属冠はほとんどが帯環金属冠で全部鑄造冠は茅場町で2, 3みられたのみであった。

歯種別にみると五霞村においては上顎側切歯、中切歯、犬歯の順であり新利根村においては上顎中切歯、側切歯、犬歯の順になり両地域とも上顎中切歯、上顎側切歯が圧倒的に多かった。

一方茅場町では上顎側切歯、下顎第一小臼歯、上顎中切歯の順になっていた(表4)。

次に前歯部と臼歯部に分けてみると、五霞村では上顎前歯部が45.6%上下顎前歯部で57%をしめ新利根村では上顎前歯部が43.6%上下顎前歯部で65.5%をしめ茅場町でも上顎前歯部で25.2%上下顎前歯部で51.7%と三地域とも前歯金属冠が全金属冠の半数以上をしめていた。

d. 橋義歯

橋義歯は五霞村59個新利根村85個茅場町107個でそれぞれ全補綴物の10%, 15.6%, 15.6%をしめていた。一歯欠損が最も多く五霞村で74.6%新利根村で76.5%茅場町で63.5%であった。

つぎに、2歯欠損で、3歯以上の欠損は五霞村3.4%, 新利根村7%, 茅場町11.7%にすぎなかった(表5)。

遊離端橋義歯は五霞村では1歯欠損で4例、2歯欠損で1例、新利根村で1歯欠損で11例、茅場町で1歯欠損1例、2歯欠損1例と少数ではあったが観察された。

e. 部分床義歯

部分床義歯は五霞村で36例、新利根村で24例と非常に少なく茅場町で73例とわずかに目立った。全補綴物に対する割合はそれぞれ6.1%, 4.4%, 10.7%であった(表2)。

中沢式分類にしたがい分類してみると前歯義歯は非常に少なかった。これは前歯の補綴は主として橋義歯で行なっているためと考えられる。また中間義歯より遊離端義歯、複合義歯の方がはるかに多かった(表6)。

f. 全部床義歯

全部床義歯は五霞村31例、新利根村13例、茅場町28例であった(表2)。大部分50歳以上の者

表 4

		五 霞 村			新 利 根 村			茅 場 町		
		右 側	左 側	計	右 側	左 側	計	右 側	左 側	計
上 顎	中 切 歯	44	43	87	42	41	83	20	20	40
	側 切 歯	44	45	89	35	34	69	26	19	45
	犬 歯	16	18	34	17	16	33	18	11	29
	第 1 小臼歯	14	12	26	14	7	21	11	20	31
	第 2 小臼歯	11	10	21	13	12	25	15	17	32
	第 1 大臼歯	17	12	29	16	13	29	14	20	34
	第 2 大臼歯	9	9	18	11	5	16	8	8	16
	第 3 大臼歯	2	1	3	2	0	2	2	5	7
下 顎	中 切 歯	9	7	16	12	13	25	11	13	24
	側 切 歯	7	11	18	11	12	23	10	14	24
	犬 歯	8	10	18	10	14	24	16	12	28
	第 1 小臼歯	12	16	28	15	9	24	23	21	44
	第 2 小臼歯	11	11	22	8	7	15	18	19	37
	第 1 大臼歯	14	15	29	8	11	19	17	17	34
	第 2 大臼歯	8	11	19	4	8	12	9	9	18
	第 3 大臼歯	2	1	3	2	2	4	6	4	10
		228	232	460	220	204	424	224	229	453

表 5

		五 霞 村	新利根村	茅 場 町
上 顎	1 歯欠損	18(30.5)%	31(36.5)%	33(30.8)%
	2 歯欠損	7(11.9)	9(10.6)	17(15.8)
	3 歯欠損	0	2 (2.3)	5 (4.6)
	4 歯欠損	0	1 (1.2)	2 (1.8)
	5 歯欠損	0	0	1 (0.9)
下 顎	1 歯欠損	26(44.1)	34(40.0)	35(32.7)
	2 歯欠損	6(10.2)	5 (5.9)	8 (7.4)
	3 歯欠損	2 (3.4)	3 (3.5)	3 (2.7)
	4 歯欠損	0	0	2 (1.8)
	5 歯欠損	0	0	1 (0.9)
		59	85	107

で上下顎共無歯顎で義歯を装着していない者はなかったが片顎無歯顎で義歯を装着していなかった例が五霞村と新利根村でみられた。

小 括

1) 本調査は五霞村、新利根村の二農村と茅場

表 6

		五霞村	新利根村	茅場町
前 歯	義 歯	3	1	1
臼 歯	遊離端義歯	6	6	30
	中間義歯	3	0	14
	複合義歯	1	4	4
前歯臼歯義歯	遊離端義歯	13	3	13
	中間義歯	2	3	4
	複合義歯	8	7	7
合 計		36	24	73

町の三地域の住民の装着補綴物について観察したもので三地域とも歯冠補綴とくに金属冠が高率を占めた。

2) 茅場町は他の二地域に比べ 1 人当りの装着補綴物の数は多く、第一報で報告した通りであった。

3) 継続歯は非常に少なく茅場町で 23 例と他の二地域に比べ多いが補綴物全体からみると非常に少なくそのかわり前歯金属冠が非常に多く継続

歯で処置すべきものが前歯金属冠で代用されているように思えた。

4) 金属冠は全補綴物の $\frac{2}{3} \sim \frac{3}{4}$ をしめ前歯金属冠の割合が五霞村で 57 %, 新利根村で 66 %, 茅場町で 52 % と半数以上占めていた。

5) 橋義歯は一歯欠損が多く 4 歯以上の欠損は 3 例観察されたのみだった。五霞村, 新利根村では相当数の遊離端橋義歯がみられ部分床義歯の少ないのと考え合えると部分床で処置すべきものを橋義歯で補綴しているように思えた。

6) 部分床義歯は五霞村, 新利根村の二地域では非常に少なくとくに前歯義歯はほとんどみられず前歯の補綴は橋義歯でなされているように思えた。

7) 以上の結果を考えてみると五霞村, 新利根村の二農村においては前歯金属冠, 前歯橋義歯等前歯の補綴が高率をしめかつ前歯義歯, 継続歯等

が全くみられなかつたのに対し, 茅場町においては前歯義歯, 継続歯が相当数観察され都市と農村の歯科補綴の違いを思わせた。

稿を終るに当たり, 終始ご懇篤なるご指導とご校閲いただいた林都志夫教授に謝意を表します。さらに, ご指導とご助言をいただいた根本一男助教授に感謝いたします。また, 現地に出張し資料を集めて下さった松本直之, 長尾正憲, 山県健佑先生, 旧教室員の平沼謙二, 杉浦友信, 荒谷和朗, 深沢竜二, 小田稔, 宮坂順先生, 神奈川歯科大学の斉藤滋先生, および霞ヶ浦分院の中野先生に謝意を表します。

文 献

- 1) 小貫伸一他: 高血圧症集団調査の所見, 第一報.
- 2) 小貫伸一他: 高血圧症集団調査の所見, 第二報.
- 3) 中沢勇他: 部分床義歯の新しい分類法とその統計, 口病誌, 22: 1, 26.
- 4) 中沢勇他: 諸種補綴物の比較統計的観察 (4), 口病誌, 26: 1, 360.